

出生数合併後から半減

井之川議員・出会い・結婚・出産・子育てに徹底支援を要求

5日に開催された沼田市議会本会議において、井之川博幸議員は、市が推計している人口減少値（2040年32,782人、2060年20,104人）よりも速いスピードで人口減少が進んでいることを明らかにし、出会いから結婚、出産、子育てに対し、市が徹底した支援を実施し、市民が安心してくらせる沼田市を実現するよう、横山市長に強く求めました。

人口が急速に減少すると、市税収入が減少することはもちろん、沼田市が一番頼りにしている「地方交付税」が減少し、財政収入が急速に減ってきます。

沼田市の予算規模は、2018年度260億円、2019年度245億円となっていますが、これは合併特例債を3年間で約100億円の借金をして事業を行っているからで、あと2年ほどたてばその借り入れはできなくなります。そのころには人口も4万5千人ほどになりますので、財政規模は、180億円程度まで縮小し、いっそう厳しい財政運営になると思われます。急速な人口減少に歯止めがかからなければ、夕張市のような可能性もあります。



出会いサポート事業の一層の推進を



急速な人口減少の第1の原因は、出生数が大幅に減り続けていることです。白沢・利根との合併後の2005（H17）年には459人だった出生数が2019年（H30）年には、259人まで減っています。

市では、現在ハッピープロジェクトをすすめ、出会いサポート事業（右上中段につづく）

青年会議所もテラスから撤退



完成間近のテラス沼田

先日、テラス沼田1階に出店予定だった書籍店が、出店を取りやめたとお知らせしましたが、今度は7階に入居を予定していた青年会議所が入居を辞退したとの報告がありました。1階については、他団体と交渉中とのことですが、7階の部屋については、展望が良いので、市民の憩いの部屋にして、市民のみなさんが利用できるようにするとのこと。

（左下からのつづき）を行い、昨年度は4回の開催で113人が参加し、14組のカップルが、今年度は5回の開催で、219人が参加し、24組のカップルができたと報告されましたが、結婚にゴールインしたところまで把握していませんでした。井之川議員は、結婚までつながっているかをしっかり把握するとともに、この事業への参加者をあらゆる手段を工夫し、増やすとともに成果を確実なものとしていくよう求めました。

結婚新生活支援事業の拡充や結婚祝い金の創設を求める

井之川議員は、ここまで出産数が減少している現況では、総務省事業として行っている結婚新生活支援事業に市として上乗せを行い、対象世帯の所得制限を340万円未満から380万円へ、補助上限額を30万円から50万円へ、増やすとともに、借家の場合、家賃補助を3年間続ける制度の創設を求めました。

さらに、妊婦助成金制度の創設も求めました。（次号につづく）



2019年3月10日 No.917

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料